

## 令和2年度県立広島大学への入学を迎えた皆さんへ

### 1. はじめに

季節は、着実に今、春から初夏への移ろいを始めています。原爆ドームを映す川沿いの桜並木は葉桜に、庄原市七塚原を渡る風には芽吹きを示す香りが、そして瀬戸内海の煌めく陽光に包まれた三原の街はより一層輝きを増しています。しかし一方で今社会は、ご存知の様に新型コロナウイルスの感染が猛威を奮っており、その結果皆さんは、それぞれのキャンパスに自由に立ち入ることのできない状況を余儀なくされていること、私達教職員にとりまして非常に残念です。

さらにまた現在も、学外において授業の再開を心待ちしていること、皆さん、そして皆さんを育てられた保護者の皆様ともども不安な気持ちにおかれている状況につきまして、私達は痛いほどその心情を察しております。これらは全て、何よりも皆さんの健康・安全に配慮した結果であることをどうかご理解ください。しかし、こうした状況におかれましても既に入学許可を受けた皆さんの心には、県立広島大学の学生の一員として、新たなステージに踏み入る期待と希望に満ちた高揚感を抱いているものと確信しています。本学はそうした皆さんの学ぶ意欲を大切に、大学への授業の橋渡しとすることで、現在は5月7日のオンラインでの授業開始に向けて事前課題を皆さんに与えています。課題にしっかり取り組み、大学への授業の助走をしておいてください。現在の非常事態は、ある意味不幸な状況でもありますが、皆さんにとってピンチをチャンスに変える機会でもあります。じっくりと課題に取り組み、受験時代には時間を割けなかった読書、そして5月7日から始まるオンライン授業ではこれから社会で求められる情報ツールをいち早く実践することができます。オンライン授業の一部には幾つかチャットで双方向の対話が要求される科目もあります。2018年にノーベル賞を取った本庶佑博士は、「オンラインの方が1対1感が強まる。40人の教室で孤独感を味わわずにすむ。」と語っています。まさに本学が皆さんに求める積極的に学ぶ姿勢は、使い方によってはオンライン授業の方がより培われるのかも知れません。さて本学の教育という言葉を発しましたので、以下私が皆さんに入学式に備えていた入学式辞の内容をお伝えすることにします。入学式に参加している気持ちで受け止めてください。

### 2. 式辞の内容紹介

皆さんを心より歓迎します。ご入学本当におめでとうございます。

それでは皆さんが門をくぐられました、私達の大学についての紹介からお話を始めたいと思います。本学は、2005年4月に広島市における県立広島女子大学、庄原市の広島県立

大学、そして三原市の広島県立保健福祉大学を再編・統合し、新たな県立広島大学として開学して15年が経過しました。しかし、その前身の大学の歴史を辿れば、100年前の県立広島高等女学校の専攻科設置にルーツがある、非常に歴史ある大学です。したがって皆さんは建学100周年にあたる、記念すべき入学生となります。その長い歴史の歩みの中で、多くの人材が今まで校門をくぐりました。例えば、日本芸術院会員で8年ほど前に文化功労者になられました作家の竹西寛子先生、がん保険で有名なアフラック日本支社の創設者である大竹美喜先生を始め、現在まで3万人以上の同窓生を輩出しています。

次に本学の現在の姿についてお話を進めることにします。明確に言えることは、兄弟の結束することの大切さを説いた有名な毛利元就の三子教訓状の例えのように、県立広島大学は、3大学統合後の15年を経た現在、束ねられた一つの大学としてさらに発展した歩みを遂げています。

教育について言えば、本学の全授業に対する学生の満足度調査結果は、統合初年度は80%でしたが、教職員一体となった授業改善の努力により毎年上昇を示し、開学5年以降は、90%を超えています。大学での授業においては、背景となる教員の研究力がしっかりしたものでなくてはなりません。本学教員の研究力には秀でたものがあります。研究力の指標とされている各教員が文科省から獲得する「科学研究費助成事業」の採択件数は、中・四国、九州・沖縄にある27の公立大学のトップを13年間維持しています。そうした研究力に裏付けられた講義内容に学生が満足を感じることは、大学の教育成果をあげるための何よりも重要な前提条件となります。さらに二年連続99.8%の就職率、そして管理栄養士や看護師など本学で受験できる国家試験は9種類ありますが、一昨年は、そのうち8つの部門で100%合格という全国トップの実績をあげています。

高い就職率、全国トップの国家試験合格率に象徴されるように、学生が真摯に勉学に取り組み、多くの成果をあげている姿は本学の誇るべきことであり、皆さんもぜひこの伝統を引き継いで欲しいと願っています。

しかし、ここで強調したいことは、私達の県立広島大学はそうした国家試験の高い合格率などの現状を誇ることで満足するレベルの大学ではないということです。私達は、さらにもう一段高い力を皆さんに求めています。それは、これから皆さんが社会の中核となって活躍する10年、あるいは20年後の社会を想像すれば分かると思います。9年前の東日本大震災、そして現在蔓延している新型コロナウイルスの感染、人類社会には予期できない試練がこれからも襲いかかるでしょう。その上、人工知能(AI)やIoTの発達によって、激変する社会の到来が現実のものになろうとしています。2015年、野村総合研究所が公表した「日本の労働人口の約49%が就いている現在の職業は、10~20年後に人工知能(AI)やロボット等に代替される」との推計結果が、明確に現実味を帯びてきています。県立広島大学は、そうした大きく変化・変質する社会の中で、未来に向けて活躍するためには、人材育成にとって何が重要かについて、教育改革推進委員会を設け、7年間に亘って真剣な議論をしてきました。その結果たどり着いたのが「**課題探究型地域創生人材**」の育成という教育目標でした。自ら課題を見出し、深く考える力を伴った

実践力を用いて、主体的に地域の発展に貢献できる人材を育てるということです。これこそ、明日の社会において最も求められる、輝きを放てる人材であると確信しています。そうした人材を育成する上での前提となるのは、自ら学び考えるという姿勢が皆さんの心に備わっていなければなりません。高校時代には日常であった、既に設定されている選択肢から解答を選ぶ姿とはきっぱり決別してください。本学では解答を自ら創造し、主体的に解決する姿勢が何よりも求められていることをしっかり自覚する必要があります。これから私達は皆さんの積極的、主体的な学びについて徹底的に鍛えて行きます。この教育には自信があります。何故なら、本学はこうした主体的な姿勢を養成する上で有効とされているアクティブ・ラーニングを実践する大学として、全国の9つの高等教育機関の一つに文部科学省から選ばれ、全国の大学をリードするモデル校として5年間の実践を積んできました。そうした実績と経験をふんだんに注ぎ込み、主体性を培って、課題探究型地域創生人材へと皆さんを誘導して行きます。皆さんの意欲と志を、未来で活躍する自分の姿へと、繋げる基礎を作ることが、県立広島大学の皆さんに対するミッションだと捉えています。

最後に事業家であり、多くの啓発を私達に与えてくれたジム・ローンの言葉を紹介いたします。

「収穫は種を植えた人だけに訪れる。祈った人ではない」

繰り返しになりますが、私達、県立広島大学教職員一同は、皆さんの積極的な学びを基にした豊かな学生生活を心から支援し、皆さんの未来への礎を作ることをお約束して、結びの言葉に変えたいと思います。共に頑張りましょう。

### 3. 終わりに

以上が予定されていた4月3日に、3キャンパスの入学生一同を集めて、平和記念公園の側にある広島国際会議場でお話する入学式辞の内容でした。皆さんに直接お会いして語りたかったのですが、残念です。しかしまた皆さんと、それぞれ3キャンパスでお会いする日は必ず来るはずです。どうか健康管理に十分留意してください。コロナウィルスに負けない元気な姿でお会いできることを楽しみにしております。くれぐれもお元気で。

令和2年4月20日 県立広島大学長 中村 健一